

ジオパーク活用 関連団体が探る

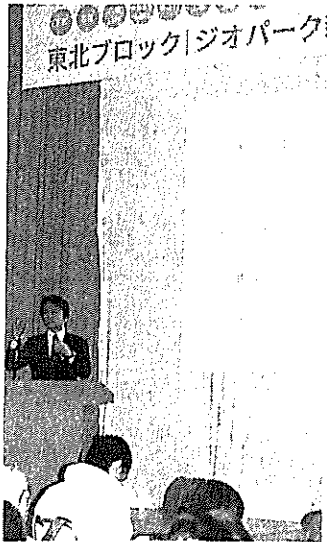
山形・遊佐で勉強会

東北のジオパーク関連団体の合同勉強会が、山形県遊佐町で開かれた。島根県の隠岐世界ジオパーク推進協議会の野辺一寛事務局長が、2013年の認定を生かした地域振興策などを語った。

野辺さんは独自の生態系、良質な黒曜石や風待ち港がもたらした文化・風習に触れ「隠岐を知れば日本列島の成り立ちや、地球規模の環境変化が分かる」と強みを紹介した。小学校から高校まで一貫

してジオパークを学ぶ時間を設けていることも報告。「隠岐高校には選択科目としてジオパーク学があり、生徒が年間約60時間学んでいる。住民が地域に誇りを持ち、自ら地域について語ることで新しい魅力を発信できる」と締めくくった。

勉強会には東北各地のジオパーク関係者約150人が参加した。16年度内の日本ジオパーク認定を目指している「下北」(青森)、「鳥海山・飛鳥」(山形、秋田)、「月山」(山形)のジオパーク推進協議会による活動状況の発表や意見交換会もあった。



世界ジオパーク認定を生かした地域振興策を話す野辺さん